

グラントワ応援団通信

平成26年
10月25日発行
第39号

「温故知新」のこころを忘れないために(上)

いわみ芸術劇場 顧問 高橋 和男

平成17年10月8日にオープンの島根県芸術文化センター(愛称 グラントワ)は、開館以来順調に入館者を増やし今年の2月11日に入館者300万人をレモニーを行いました。これは偏に圏域にお住まいの皆様を始め、ミュージアムパスポート・ホール友の会・共通カード会員並びにグラントワボランティア会各位のご支援・ご協力のお陰と、グラントワの運営に係わる者の一人としてお礼・感謝申し上げます。

現在、来年度開館10周年記念として美術館・劇場ともに魅力ある諸事業が計画されており、年明けから公開が予定されていますのでご期待いただきたいと思えます。グラントワはオープン前から、全国的にも珍しい複合施設(石見美術館Ⅱ4つの個性的な展示室では、コレクション展に古美術・近代に現代美術・フアッションなど大規模な企画展が、いわみ芸術劇場Ⅱ最新の施設に音響・照明設備を備え、オペラ・ミュ

ージカルやコンサートなどが上演できる1,500席の大ホールと400席の小ホール等)として注目されてきましたし、開館後、公共建築「優秀賞」をはじめとする多くの賞を受けてきました。見学者は県内外の建築業界をはじめ、とりわけ、建築士を志す学生が夏休み等長期休暇を利用して、内藤廣氏(内藤廣建築設計事務所)設計による総工費168億円、石州瓦28万枚(屋根Ⅱ12万枚、壁面Ⅱ16万枚)、回廊やホワイエ部門に使用されているカリン材に、建物の中央中庭には25メートル四方の水盤域からなるグラントワへ、芸術文化の殿堂としての建物を検分すべく、個人やグループでの施設見学が現在も続いています。

月日の経つのは早いもので、現在、職員の半数以上がグラントワ開館後の採用であり、ボランティア会員の中心にも、開館まで、どんな経緯で建設に至ったかについてご存知ない方もお

られ、平成14年度から開館当初、今日までグラントワと係わりのある者一人として、その概要をお示し、ご理解をいただきたいと思えます。

(平成ⅡHと表示)

○H3年 益田市民(女性の有志が中心)と益田市長が島根県に美術館をつくることを要請

○H6年 県議会において、益田市に美術館建設を知事が表明

○H9年 西部美術館基本構想検討委員会」設置

○H10年 「石西県民文化会館整備基本構想検討委員会」設置

○H11年 益田市長と圏域町村長等が美術館とホールを複合的に整備することを島根県に要請

○県議会において、西部美術館と石西県民文化会館の機能を併せ持つ、複合的な芸術文化施設建設を知事が表明

○H12年 「県民文化会館・美術館複合施設基本構想検討委員会」設置

○同委員会が『島根県芸術文化センター(仮称)整備基本構想に関する提言』を知事に提出

○上記提言を受けて、島根県が「島根県芸術文化センター(仮称)整備基本構想」を策定し、本格的建設に着手を決定

○建設コンペで、内藤廣建築設計事務所内藤廣氏(現東京大学院大学名誉教授)

の作品を最優秀計画案に選定

○H13年 愛称を公募し「グラントワ」に決定 Grand Tot(フランス語で「大きな屋根」)

○H14年 建設工事(大成建設)に着手(11月)

○H17年 建物を建築業者から島根県が(3月31日)引渡しを受ける(建物竣工) 島根県芸術文化センターグランドオープン(10月8日)

以上のように、市民の声があがってからグラントワがオープンする迄には約14年間の歳月を要しています。

(続きを次回40号に掲載します。)



「おろちくん」と「しまねっこ」



「仮面舞踏団」と「石見神楽」



「せんとくん」 藪内佐斗司展

『オーボエの夕べ』

十一月二十九日(土) 18時00分 多目的ギャラリー

情報発信ボランティア 大庭明博

○オーボエを演奏される萩森幸子さんはグラントワボランティヤ会・田中道枝さんのお嬢さんで、山口芸術短期大学音楽科卒業。同大学専攻科修了後、第19回全日本クラシック音楽コンサート優秀賞受賞などを経て、現在東京都内中心に演奏活動されています。「オーボエの夕べ」(名曲たまたま箱)は07年より毎年開催されており今年は第8回となります。

○クラシック中心ですが、ファンでなくてもなるべく気楽に聴いてもらえたら、楽しかったと思ってもらえたらって、そんなコンサートです。その芸術性で敷居高く感じるところもあるクラシック。でも作曲の当時はポップスですので自由に楽しんでもらえればと思います。

○コンサートのオーボエ、ファゴット、フルートとピアノのアンサンブルで、メイン・プログラムはチャイコフスキーの三大バレエのひとつ

「くるみ割り人形」ハイライトです。少女とくるみ割り人形がクリスマス夜の夜に繰り広げるファンタジーに「こんぺいとうの精の踊り」「葦笛の踊り」「花のワルツ」など魅力的な曲の数々で彩られた名作です。日本の年末の「第九」のように欧米ではクリスマスシーズンの定番ですね。他にはビゼーの「アルルの女」第一、第二組曲から「鐘」や「メヌエット」が演奏されるのでしょうか。また、映画音楽、民謡、歌謡曲もあり幅広いプログラムとなっています。

○ステージと客席は正に一体化し間近で生の音が聴け、楽器の豊かな音色も存分に楽しめます。休憩時間には飲み物と手作りクッキーのサービスなどアットホームで親しみあるくつろぎのひととき。日常の現実から暫し離れてそれぞれに楽しい夢の世界に浸ってもらえればと思います。

連絡先 田中道枝さん

(0856-23-6698)



「手作りクッキー」



昨年の「魔笛」クレイアートの映写



「きんさいデー」

編集後記

「益田家文書里帰り展」が11月24日まで美術館A室で開かれています。私たち郷土「益田」の歴史、文化などを学ぶことのできる大変興味深いものです。「益田氏」は関ヶ原の合戦(西暦1600年)までの約400年間、この地を治め、活躍したとされています。その後、江戸時代には萩藩に移りますが益田家の残っていた「古文書(手紙、証明書など)」が大変貴重

なもの、この度、東京大学で活字化されその内容が明らかになりました。私は大変興味深く拝見しました。古文書や作られた模型をみながら当時の様子が想像できますのは楽しいことです。中世に大変繁栄したと思われる、わが町「益田」は、だんだんと明らかになる様です。七尾城のこと、政務の中心だった三宅御土居のこと、外国とも交易があったであろう中須の湊のこと、雪舟の水墨画や庭園のことなど、また中世の生活や食べ物などが身近になると思われます。いま計画されている「三宅御土居の復元」が、出来る上ると「中世ロマンの町益田」がいよいよ完成して、観光の目玉になることを大いに楽しみにしています。

(飯塚)